

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学部	
科目名称 [英語名称]	国際関係論 [International Relations]					実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○	
科目コード	750015	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	1年次		
教員氏名	馬場 孝					学位授与の方針 との関連			
授業概要	<p>本授業の目的は、国際関係論の学問としての特色と全体像ならびにその基礎的な知識を習得することと同時に、国際社会の直面する諸問題や歴史的な展開について興味や関心を喚起することにあります。</p> <p>国際関係論は「社会科学」の一分野です。「社会」という「暗記」を連想するかもしれませんが、そうではありません。「考えること」が何より大切です。この授業では国際社会に起こる様々な現象について「考える方法」を身につけることを目指します。そして、考えるための一番のきっかけは「関心を抱くこと」です。国際関係論という学問がいつ、なぜ、どのように生まれたのか、その歴史的背景をリッヒャルト・ゾルゲという人物がかかわった「国際スパイ事件」を題材に道案内します。同時に、「機能分析」「分析のレベル」「ゲームの理論」といった「考える方法」や基礎概念を習得して、国際社会にアプローチするさまざまな方法を提示していきます。</p>								
関連する科目	社会学、経済学、歴史と現代、歴史と社会、哲学、宗教学、法学、日本国憲法								
授業の進め方と方法	<p>集中講義という授業形態を考慮して、4日間、朝から夕方まで一方的に話し続ける講義形式は避け、アクティブラーニングの手法を常用し、講義内容に関連の深い映像資料も一部使用します。具体的には(1)グループディスカッションに基づく双方向授業方式(第1回、2回、5回、6回、7回、9回、13回、14回)(2)トランプカードを用いた「ゲームの理論」の実験と応用(第10回、11回)(3)PITというゲームの活用(第8回)(4)映像資料の活用とディスカッション(第3回、4回、12回)</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>国際社会へのアプローチ1 機能分析-1 「機能」という概念をさまざまな社会現象について適用する方法を学びます</li> <li>国際社会へのアプローチ1 機能分析-2 前回で習得した概念を用いて、「戦争」がなぜ根絶しがたいのか、考えていきます</li> <li>ゾルゲ事件で学ぶ国際関係論(1) 「ゾルゲ事件」とはどのような「事件」であったのかを、わかりやすい映像を用いて紹介します</li> <li>国際関係論とは？ 国際関係論という学問が生まれた歴史的背景と、ゾルゲという人物が「スパイ」となったきっかけを重ね合わせて、国際関係論とは何かを学びます(以上、1日目)</li> <li>国際社会へのアプローチ2 国際関係論における分析のレベル(1) その概要 国際社会の諸現象に複数の「分析のレベル」を設定して考えていく方法のあらましを示します</li> <li>国際関係における分析のレベル(2) 「南北問題」を事例に、「分析のレベル」を移していくことで、大きな視座の転換が行われることを理解し、「世界システム論」の基礎を学びます</li> <li>国際関係における分析のレベル(3) 特定の歴史的な事象に「分析のレベル」を適用し、複眼的な理解への第一歩になることを提示します</li> <li>カードゲームで学ぶ国際関係の理論 海外の授業で使用される国際政治経済学での方法を借用し、リアリズム、リベラリズム、ラディカルズムといった国際関係の「見方」を考えてみます(以上、2日目)</li> <li>なぜ戦争は起きるのか？ この古典的な問題をあらためて考え、「民族的・文化的偏見」の構造を学際的にみつめなおします</li> <li>「ゲームの理論」入門 一種のロールプレイを用いて、ゲームの理論の初歩を学びます</li> <li>「ゲームの理論」の応用 「朝鮮半島問題」を事例に、ゲームの理論の国際関係分析への適用を試みます</li> <li>「子ども兵、資源、国際紛争」映像資料を用いて、子ども兵問題への関心の喚起を導入を行います(以上、第3日)</li> </ol>								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>国際社会に生起する現象について考える力を身につける</li> <li>国際関係論の基礎的な概念を習得する</li> <li>国際社会の直面する諸問題や歴史的な展開について興味と関心を抱く</li> </ol>								
授業時間外の学修	<p>授業中に配布する資料は大部となりますので、授業時間内に参照できない部分については、講義1回分について30分程度の自宅での学修(精読)が求められます。授業時間外での学修に際しての重要なポイントは授業中に指示します。</p>								
課題に対するフィードバック	授業中の課題や提起した問題への解説はすべて授業中に行います			評価方法	以下の項目に基づいて評価します  1 筆記試験 70点  2 授業への参加態様 30点				
テキスト	使用しない								
参考書	衛藤藩吉・渡邊昭夫・公文俊平・平野健一郎『国際関係論第二版』東京大学出版会								
備考									